

# 古事記傳

二十六

和書  
一〇五二一號

和書門類	一〇五二一號
函號	七九
架冊	六八
冊	四八

內閣文庫	和書
一〇五二一號	類
四八冊	函號
一三八冊	架冊

內閣文庫	番號	和 10521
	冊數	48 ( 29 )
	函號	137 1

內一三六八二號



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



大帶日乎游新吾知  
天子身之  
繼向之日代官治天  
皇聖言備之  
津日乎之如針問之

消印

古事記傳二十六之卷

日代宮一之卷

大帶日子於斯呂和氣天皇坐

オホタラシヒ

コ

ロ  
ワ  
ク  
ノ  
ス  
メ  
ラ  
ミ  
コ  
ト  
○  
マ  
キ

纏向之日代宮治天下也此天

ム  
ノ  
ミ  
ヤ  
ニ  
マ  
ヅ  
ク  
テ  
ア  
メ  
ノ  
シ  
タ  
シ  
ロ  
レ  
メ  
レ  
キ  
○  
コ  
ノ  
ス  
メ  
ラ

皇娶吉備臣等之祖若建吉備

ミ  
キ  
ビ  
ノ  
オ  
ミ  
ラ  
ガ  
オ  
ヤ  
ワ  
カ  
タ  
ケ  
キ  
ビ

津日子之女名針間之伊那毘

ツ  
ヒ  
コ  
ノ  
ミ  
ム  
ス  
メ  
ナ  
ハ  
ハ  
リ  
ミ  
ノ  
イ  
ナ  
ビ

本居宜長謹撰

内一二六八二號

能大郎女生御子。櫛角别王。次

大碓命。次小碓命。亦名倭男具

那命。具那二。次倭根子命。次神

櫛王。五。又娶八尺入日子命之

女八坂之入日賣命生御子。若

帶日子命。次五百木之入日子

命。次押别命。次五百木之入日

賣命。又妾之子。豐戸别王。次沼

代郎女。又妾之子。沼名木郎女。

次香余理比賣命。次若木之入

日子王。次吉備之兄日子王次

高木比賣命。次弟比賣命。又娶

日向之美波迦斯毘賣生御子。

豐國別王。又娶伊那毘能大郎

女之弟伊那毘能若郎女

字以生御子。真若王次日子人  
音之大兄王。又娶倭建命之曾孫。

名須賣伊呂大中日子王

四字之女訶具漏比賣生御子。

以音大枝王。



於纏向是謂日代宮ツあり。○吉備臣乃事ハ黒田宮段  
出ツ傳九一の五十二葉より五○若建吉備津日子命  
黒田宮段出ツ傳九一の四十六○若建吉備津日子命  
天皇の御子景行天皇ハ彼天皇乃五世御孫ニ坐セ  
其御女ハ娶坐ミマヒむツハ時代違トキヨフ如クあれツ也  
上代の人ハ多く壽長イシチナカありツハ深く疑ふ法ツキハ非  
父但書紀ニ崇神乃十年ハ此御兄吉備津彦遣ツ西道  
云々ツありハ孝靈の御世乃末より百三十年ハ  
王ハ當ツり又孝靈乃御世の末より景行の御世乃始  
別ハ此若建日子命の孫ツハ應神乃北二年ハ見ツゆ  
孝靈乃御世末より五百年餘ありハ其御曾孫乃存ツ在  
紀乃年紀ハ左ツ右ツハ疑ハツ倭建命乃東征の御從ツせ

吉備建日子ハ姓氏録ニ依ツルハ此命の御子ツなるツぞ  
又若建吉備津日子ツハ吉備建日子ツハ父子御名乃似  
ももツ以思ふハ此間乃世次ツハ似ツハ名ツありツ二  
世三世乃一世ツハ混ツハむツ知ツカツあり○伊那毘能  
大郎女伊那毘ツハ和名抄ツハ播磨國印南伊奈美郡あり是  
あり万葉一ツハ伊奈美國波良三ツハ小ツ稲日野又  
二十ツハ小ツ稲見乃海四ツハ小ツ稲日都麻浦箕乎過ツ而六ツハ  
四ツハ小ツ神龜三年幸於播磨國印南野時云々八隅知之吾大  
王乃神随高所知流稻見野能大海乃原笑云々此外も  
歌多ツハ古ツより伊那毘ツハ續紀九六ハ小ツ播磨國賀古

郡人馬養造人上欵云人上先祖吉備都彦之苗裔上道  
臣息長借鎌於難波高津朝廷家居播磨國賀古郡印南  
野其六世之孫云々伏願取居地之名賜印南野臣之姓  
云々これ賀古郡印南野あり此野ハ印南郡よ  
別命の十一世孫也三  
代実録三十六小見ゆ了りて見也バ此印南のあこ  
る小若建吉備津日子命乃御子孫ハ後までも有しな  
る由て即女了云称の事ハ上傳北一の十葉  
北二の七十葉お云り大  
了云ハ此御弟も共小妃もく坐故子姉弟を分て大了  
云若了云はあり又必し一弟小對了ぬやも大郎女了  
名小申せも例も允恭天皇御子なやの御  
多し○櫛角別王御名意櫛ハ奇あり角ハ葛り網り都怒

都那通又地名あり詳なり比書記ハ此御子無し  
例多しオホウスヲウス  
○大碓命小碓命書記ハ其大碓皇子小碓尊一日同胞  
雙生天皇異之則誥於碓故因號其二王曰大碓小碓也  
了り和名抄小四声字苑云白春穀器也和名宇須  
須あり万葉十六小佐此豆留夜幸碓爾春庭立碓子  
尔春了り碓子ハ碓子の誤り也加良宇須了云ハ  
林ハ柄のあり由あり柄白あり韓白の意抑雙生坐所  
ハ非也上代より有し物了見えりを異子賜了バ物了を何れ碓小し誥賜了  
ハ何乃由あり有きむ此ハ何とまも碓小ハ所以あ  
る事あり了り御子乃御名の碓ハ宇須了訓了誥  
其故ハ御子の御名也此記小も書記小も白了書了  
了碓了書了ハ本碓小因了り了り了り了り了り了り了り







名之也。云。例もぬし。意事。押ハ大乃意あり。修。○五百  
 紀ふ。忍足別也。あり。木之入。日賣命。御名。義兄命。小同ト。或書小引。尾張國。  
 栗。郷有。宇夫須那。神社。廬入。姫。誕生。産地也。故。有。此。号。云。  
 云。至。此。御母命。美濃國。より。出生。彼。國。小。天皇。娶。坐。  
 五百。木。入。日子。命。乃。尾張。連。の。女子。娶。坐。一。由。あり。御兄。  
 小見。え。ゆ。り。是。も。書紀。よ。ハ。四年。春。二月。天皇。幸。美濃。云。  
 由。あり。了。聞。ゆ。云。仍。喚。八。坂。入。媛。為。妃。生。七。男。六。女。第一。曰。稚。足。彦。天皇。  
 第二。曰。五百。城。入。彦。皇子。第三。曰。忍。之。別。皇子。第四。曰。稚。  
 倭。根。子。皇子。第五。曰。大。酢。別。皇子。第六。曰。淳。熨。斗。皇。女。第。  
 七。曰。淳。名城。皇。女。第八。曰。五百。城。入。皇。女。第九。曰。麿。依。  
 姫。皇。女。第十。曰。五十。狭。城。入。彦。皇子。第十一。曰。吉。備。兄。彦。

皇子第十二曰高城入姫皇女第十三曰弟姫皇女  
 右十三柱の内。四柱ハ此記也。合子。八柱ハ御母。  
 異なり。今一柱大酢別。ハ此記也。無し。按。お。此。ハ。忍。  
 之。別。也。一。王。あり。二。柱。ハ。此。記。也。無。し。其。ハ。上。云。海。  
 如。く。忍。之。別。乃。之。字。ハ。行。小。忍。別。あり。其。忍。ハ。大。の。意。  
 たり。れ。ハ。淤。富。斯。ヤ。淤。富。須。也。御名。乃。傳。乃。い。ハ。乃。差。  
 あり。ま。ず。二。柱。ハ。大。為。明。也。又。此。記。也。大。酢。別。の。無。  
 皇。の。御名。大。脚。ハ。大。為。明。也。又。此。記。也。大。酢。別。の。無。  
 見。ハ。彼。之。字。の。行。あり。あ。や。明。く。又。此。記。也。大。酢。別。の。無。  
 き。も。宜。○。又。妻。ハ。麻。多。能。美。賣。也。訓。淳。一。倭。建。命。段。也。又。  
 一。妻。又。高。津。宮。段。也。も。天皇。所。使。之。妻。也。も。あり。小。同。ト。  
 書紀。あり。バ。妃。書。修。修。き。を。然。ハ。書。次。又。妻。也。又。妻。也。又。妻。也。  
 書。ふ。ハ。字。面。小。拘。ぎ。古。記。の。躰。也。訓。も。妻。字。小。泥。法。  
 き。小。非。乃。妻。ハ。和。名。故。小。乎。無。奈。女。也。此。ハ。凡。人。の。  
 子。乃。稱。小。又。師。ハ。乎。無。奈。女。也。御。妻。也。俗。稱。あり。法。云。  
 小。は。阿。又。師。ハ。乎。無。奈。女。也。御。妻。也。俗。稱。あり。法。云。  
 庶。妹。を。ア。ラ。メ。イ。モ。ウ。ト。云。小。依。バ。妻。ハ。ア。ラ。メ。云。

正小對て。鹿乃意あり。書紀ふ。妃乃みあ。次夫人  
云云。正小對て。鹿乃意あり。書紀ふ。妃乃みあ。次夫人  
庶妃嬪女御あ。故も。美賣也。訓五。所く。か。妻也。乃み  
云。所。必しも。むき。小賤し。き。故也。師云。御母の名乃傳  
は。女也。如此記せ。所。其傳は。所。故。此。天皇  
五十九年。ま。久。西。國。小。坐。其。間。彼。處。小  
て。其。名。の。世。小。普。く。聞。え。所。り。の。生。あ。り。も。京。遠。く  
一。故。又。御。子。あ。ら。の。御。名。も。傳。は。る。ぬ。か。多。き。あ。り。也。  
豐戸別王。戸。速。乃。意。を。や。可。む。入。彦。命。也。豐。門。別  
云。を。も。舉。め。り。い。か。い。書。紀。小。次。妃。襲。武。媛。生。國。乳。別  
皇子。與。國。背。別。皇子。別。皇子。豐。戸。別。皇子。其。兄。國。乳。別  
皇子。是。水。沼。別。之。始。祖。也。弟。豐。戸。別。皇子。是。火。國。別。之。始

祖也。所。あり。襲。武。媛。ハ。熊。曾。國。の。女。人。也。武。媛。了。云。名  
名。ハ。傳。は。る。所。り。一。此。記。ハ。其。名。も。知。ら。れ。り。○  
沼。代。郎。女。ハ。書。紀。小。無。く。一。異。御。腹。郎。女。小。淳。發  
斗。皇。女。所。り。其。あ。る。所。ハ。奴。能。斯。呂。也。訓。は。師。ハ。奴。那  
奴。能。斯。呂。也。訓。見。き。奴。那。斯。呂。ハ。所。も。あ。る。所。ハ。沼。河。江  
了。書。所。例。も。あ。り。又。沼。名。本。郎。女。也。云。も。あ。る。所。あ。り。奴  
能。斯。呂。ハ。訓。が。ぬ。一。斯。乃。借。字。御。名。義。奴。ハ。例。多。し。上。中  
小。代。郎。ハ。書。ま。す。り。也。ハ。り。御。名。義。奴。ハ。例。多。し。上。中  
斯。呂。ハ。天。皇。の。大。御。名。乃。斯。呂。也。同。ト。き。り。又。御。名。ハ。書  
紀。小。依。呂。御。母。ハ。此。記。の。豐。戸。別。王。同。き。小。依。ら。ハ。西。國  
乃。地。名。也。所。り。也。越。中。國。土。佐。國。也。所。り。也。布。師  
了。思。小。奴。豆。也。訓。は。ま。り。五。小。代。字。也。書。所。ハ。他。田。宮。段  
了。彌。代。也。賣。命。書。紀。仁。德。卷。小。五。代。也。見。え。万。葉。五。小



云り。別雷ふやも。和  
紀ふく。若乃意あり。書紀中の指日。大郎姫。一云。指日。推  
即姫。何れ。別。若郎女。無。一。註。自伊下云々。  
この上。ふ。あ。き。此。何。い。真若王御  
名。殊。あ。真。雅。明。宮。段。品。陀。真。若  
王。五百木之入日子。云。見。由。○。自。子。人。之。大。兄。王。御。名。  
命。の。御。子。あ。り。云。見。由。○。自。子。人。之。大。兄。王。御。名。  
義。人。の。大。兄。の。意。なり。上。の。日。子。乃。子。小。凝。の。韻。あ。り。故  
首。也。人。の。云。何。例。も。何。大。兄。の。字。の。如。く。舒。明。天。皇  
乃。大。御。父。の。御。名。も。押。坂。彦。人。大。兄。皇。子。申。せ。り。其  
外。大。兄。の。御。名。の。多。く。履。中。天。皇。ハ。大。兄。云。々。安。南。天  
御。名。大。兄。皇。子。又。山。背。大。書。紀。私。記。小。昔。称。皇。子。為。大。兄。  
兄。王。ふ。や。其。外。も。何。り。

又。称。近。臣。為。少。兄。也。宿。称。之。義。取。於。少。兄。也。云。云。大。兄  
紀。小。オ。ヒ。不。了。訓。何。書。紀。中。の。真。若。王。も。此。王。も。無。く。  
然。亦。小。仲。哀。卷。小。娶。叔。父。彦。人。大。兄。之。女。大。中。姫。為。妃。也。  
何。見。見。也。バ。此。御。卷。子。無。き。ハ。脱。も。何。り。此。ハ。五。百  
命。混。了。脱。も。何。り。其。故。ハ。御。母。も。彼。紀。中。の。指。日。  
大。郎。女。の。若。郎。女。一。ハ。混。み。又。應。神。天。皇。の。妃。五。百。木。  
入。日。子。命。の。御。孫。中。日。賣。命。也。彼。仲。哀。天。姓。氏。録。小。茂。田。  
皇。の。妃。乃。大。中。姫。也。御。名。同。き。あ。り。瑞。一。本  
勝。景。行。天。皇。皇。子。息。長。彦。人。大。兄。瑞。城。命。之。後。也。小。磯。也  
作。里。舊。事。紀。中。息。前。考。○。曾。孫。ハ。和。名。抄。子。尔。雅。云。孫。之  
人。大。兄。水。城。命。也。何。り。子。為。曾。孫。和。名。比。々。古。字。鏡。小。曾。孫。比。々。子。何。り。契  
云。凡。乙。物。也。隔。也。比。比。云。孫。ハ。一。重。隔。も。子。あ。り。此。意。也  
曾。孫。ハ。又。一。重。隔。も。子。あ。り。目。醫。也。比。比。云。也。此。意。也







必一柱ツ也ハ如ク右ノ辨ズ子ノ如ク書紀也ハ  
 此ノ御子無シ○記中御世々ノ段御子等を奉り例其ノ  
 御腹々ノ終毎必幾柱ツ也註せらふ此段乃亦ハ初ノ伊  
 那毘能大郎女ノ御腹乃終子ノ亦五柱を註して其餘ハ  
 此ノ註亦其ノ故亦也其ハ此ノ天皇ノ御子もハ  
 不入記五十九王也何れ傳はるが多けバ此  
 亦奉り御腹々ノ中中も漏り御子乃亦在らズこ  
 初ノ御腹也註せらふ無きガ如ク也ハ亦然ふト  
 上件ノ御子乃外也又妃三尾氏磐城別之妹水齒郎媛  
カミノ御子乃外也又妃三尾氏磐城別之妹水齒郎媛

生イ五百ホ野ノ皇ミ女メ二十ニ年年春二月月遣ハり次妃阿部氏未事  
 之女高タ田カ媛タ生タ武タ國クニ凝コ別コ皇ミ子コ是コ伊イ豫ヨ國クニ御ミ村ム別コ之オ始ヤ祖ヤ  
 也次妃日向ム髮ハ長チ大オ田カ根ネ生ヒ日ム向ム襲ソ津ツ彦ヒ皇ミ子コ是コ阿ア牟ム君ノ  
 之始祖也也何れ此を并て書紀小録せらる  
 御子都て二十四柱也何れ

凡ス此レ大オ帶タ日ヒ子コ天ス皇メ之ノ御ミ子コ等タ子  
 所フ録ニ廿ニ一ハ王タ不レ入ル記サ五ル十イ九ツ王ガマリコノハレラ  
 并ズ八ツ十ハ王ラ之マ中セ若シ帶ル日ヒ子コ命ミ與ト  
スベテコノオホタラシヒコソスメラミコトノミコノタチ  
フニレルセルハタチリヒトハレラシルサバルイツガマリコノハレラ  
ズセテヤソハレラマセルナカニソカタラシヒコノミコト



大数オホカズを云イハふコト。俗言ソコトハ七八十人必カナラしモ。精シツく計カすコト

小コハ非ヒト。然シカレバ不入イラズコト。五十九王イハ。まと自ミ其ノ餘リ七十七

計カすコト。後ノ書シ紀キハハ八ハ十ト子コ也ナリ。舊キウ事ジ紀キハハ夫ハ天テン皇ス

所シ生ナ男ヲ女ヲ。總ソウ八ハ十ト一ト皇ス子コ之ノ中ノ。男ヲ五ト十ト五ト。女ヲ二ト十ト六ト。就シテ中ノ

際ハ。留ル六ト皇ス子コ。男ヲ五ト。女ヲ一ト。以テ外ノ皆ヲ封シ州ノ縣ノ矣ナリ。皇ス子コ五ト十ト。皇ス女ヲ

二ト十ト五ト。合シ七ト十ト五ト。各ノ封シ州ノ縣ノ不レ入ル國ノ史ノ也ナリ。云フ。五ト十ト五ト皇ス

子コ一ト皇ス女ヲノ御ノ名ヲをシ奉ル也ナリ。信シ也ナリ。○三ハ王ヲ負ヒ太シ子ノ之ノ名ヲ也ナリ

是レ上ノ代ノ常ニ也ナリ。抑シ上ノ御ノ代ノ々々也ナリ。日ノ嗣ノ御ノ子ノ也ナリ。申シせル所ニ

ハ皇ス子コあらのノ中ノ也ナリ。取リ分ケてモ尊ニ崇ニをシ。殊ニあら市ノま也ナリ。定メ

之レ賜リ所ノ物ヲ也ナリ。其ノ必シ也ナリ。一ト柱ノ也ナリ。限リら次ニ或ハ二ト

柱ノ三ト柱ノ也ナリ。坐シてモ也ナリ。皇ス后ノ乃チ御ノ腹ノのノ御ノ兄ノとシ

然レ也ナリ。漢ノ國ノ也ナリ。王ノのノ位ノ也ナリ。嗣ノ御ノ子ノ也ナリ。用ヒてモ也ナリ。

太シ子ノ也ナリ。故ニ其ノ字ヲをシ取リてモ也ナリ。日ノ嗣ノ御ノ子ノ也ナリ。元ノ來ノ也ナリ。

然レ定メ置キ賜リ所ノ物ヲ也ナリ。彼ノ皇ス太シ子ノ也ナリ。當リ也ナリ。一ト柱ノ也ナリ。

彼ノ元ノ也ナリ。御ノ録ノ也ナリ。同ノトノ也ナリ。異ニ也ナリ。一ト柱ノ也ナリ。

限リら也ナリ。御ノ録ノ也ナリ。同ノトノ也ナリ。異ニ也ナリ。一ト柱ノ也ナリ。

命ヲ若シ御ノ毛ノ也ナリ。命ヲ神ノ武ノ也ナリ。二ト柱ノ太シ子ノ也ナリ。坐シてモ也ナリ。又チ神ノ

武ノ天ノ皇ノのノ太シ子ノ也ナリ。神ノ八ノ井ノ耳ノ命ノ也ナリ。神ノ沼ノ河ノ耳ノ命ノ也ナリ。二ト

柱ノ也ナリ。坐シてモ也ナリ。共ニ也ナリ。彼ノ御ノ段ノ也ナリ。傳ノ十ノ八ノのノ四ノ五ノ六ノ也ナリ。委シてモ也ナリ。

辨シりも也ナリ。如シ。次ニ也ナリ。書シ紀ノ崇ニ神ノ卷ノ也ナリ。四ト十ト八ト年ノ豐ノ城ノ命ノ也ナリ。

乎。活目命天皇垂仁天皇二柱の内也。御夢の因り。嗣亦定賜了  
ほも。元来此二柱太子坐ほが故あり。次亦垂仁卷小  
卅年。天皇詔五十瓊敷命大足彦尊曰。汝等云々乎。何  
此も此二柱太子坐し。故あり。若然らばハ。いあて  
此詔ありむ。五十瓊敷命の御墓。諸陵式。次亦應神卷小  
中載。後まが祭賜ふをも。思ふ。後。次亦應神卷小  
四十年。天皇召大山守命大鷦鷯尊。同之曰。云々乎。あ  
是又此二柱も。宇遲稚郎子。共子三柱。元より太子子  
坐。故あり。故其より前。廿八年の起ゆも。太子菟道稚  
郎子。記され。仁德卷小。初。天皇生日。木菟入于産殿  
云々。則取鷦鷯名。以名太子。曰大鷦鷯皇子。見え。此記

明宮段小も。太子大雀命。姓氏録雀部朝小も。應神御世。  
皇太子大鷦鷯尊。此ら皆上代ありの傳言の隨  
小記せり。文あり。又宇遲若郎子。帝位を固く大雀命  
譲避賜ひ。大雀命ハ。御兄小。共子太子坐。し  
故あり。然亦書紀ハ。何事も漢国のあり。ま  
も。上代より。全漢國の例。如く。太子を立。賜ふ。ま  
ゆ。天皇乃大御母皇太后。記。見。さ。か。如  
當代乃嫡后也。大后。云。古の趣ハ。隠。人得。知。ら  
る。古書。然。又。漢。さ。ま。あ。る。な。ほ。ら  
亦。亦。同。古。傳。の。ま。記。し。れ。事。も。あ。り。見  
え。も。か。乃。大。雀。命。太。子。記。さ。れ。あ。り。物。を。そ。の  
亦。物。ど。り。れ。ハ。書。紀。も。漢。文。さ。る。飾。乃。あ。き。處。中。心。也

あま又此記了此了事乃作す我よく考す見也ハ。隠  
るや上代ノ実のありあり也いやよく知らし  
やぞかし然るに延佳ガ按三王負太子之名者非為皇  
太子只不同封國諸王之列耳以日本紀可併考凡此記  
不拘文字以妃称后以薨称崩此類固多や云所ハ  
全漢國ゆふひ賜子后乃御制書紀の文や此  
升了上代の趣を深く考す日嗣御子や申さば此  
記文字中檢らば妃也后や記すも同ト云ふ  
子や書紀由ふし妃也后や記すも同ト云ふ  
凡了後乃御制書紀の文や上代の事を論  
ふに延佳乃升也乃直也大方世の物知人皆同ト  
辨ふ也 市也今若帶日子命や五百木入日子命やハ大  
あり 後の御腹乃御兄小坐倭建命ハ初の大后乃御子小坐  
キヤキ 故もぞ此三柱殊子太子小坐けむ 御兄櫛角別王  
ハ倭建命也之殊小愛子おもひ書紀北八年  
乃下也也天皇美日本武之功而異愛や見えり又大

確命ハ大御心小かふは也賜りけり 〇自其  
十年乃下見也此記也其意は了見えり 〇自其  
餘ハ曾礼余理本迦や訓法 餘又他や見えり 〇自其  
往思乃外人也 〇國々之の下の縣主まで係る 國造乃升  
ま 〇國造乃事上卷 傳七の六十六 小云里 〇和氣ハ國  
造稻置あやの類も 諸國處々ありて 此より以前  
段ハ血沼別多逢麻竹別伊那河宮段ハ葛野別近淡海  
政野別若狹耳別三河穗別也其次々小也此より下  
小も多し其別やあは皆是なり此段乃内上 〇其  
了三野之宇泥須和氣や假字也書ハ 吾君兄の意也  
地也治む人云名義ハ 借字也 〇十九  
子法 此類ハ君や云尸も有り又直や云も有り其も  
阿多此冠ありて傳七小云法が如し同類也





故若帶日子命者治天下也小

る形り。作又別王之苗裔也。所加の。紛ら。訓も。別王。云々。古き。稱も。聞え。凡。漢文。分。取。テ。云。コ。ヤ。訓。も。古。言。中。思。ひ。れ。諸。國。分。任。賜。取。テ。も。い。り。る。稱。なり。思。ひ。れ。諸。國。分。任。賜。取。テ。諸。國。之。別。者。也。何。り。即。其。別。王。也。初。き。出。る。如。く。諸。國。の。別。て。小。尸。も。分。任。賜。取。テ。如。く。此。の。記。さ。れ。る。小。や。あ。む。若。別。王。の。子。孫。あ。る。因。り。別。て。云。々。な。り。別。王。の。非。不。倭。建。命。の。御。末。也。別。の。尸。何。る。を。ば。い。り。や。せ。む。諸。國。の。尸。の。別。分。任。賜。取。テ。由。の。稱。又。非。不。倭。建。命。の。御。末。也。如。く。先。思。ひ。混。ぶ。ふ。と。や。勿。ま。な。い。は。書。紀。乃。文。ふ。よ。り。ゆ。先。思。ひ。混。ぶ。ハ。皆。此。御。世。の。皇。子。の。御。末。也。又。い。り。る。御。末。也。る。ハ。無。き。が。ご。や。聞。ゆ。ま。れ。又。い。り。る。御。末。也。

カレワカタラシヒコノミコトハアメノシタシロシメシキヲ

確命者平東西之荒神及不伏

人等也次擲角別王者

次大確命

擲王者

國別王者



小碓命と御兄御角別王。大碓命より先小碓命より此、御子の早く崩生也。バこそめれ然らば、天下治まはさき御子小坐し、故なり。此より升次云、ぬも是故也。

○東西ハ、尔斯比年加斯云、皇國言の例あり。珠子此ハ、西方を平給ひしを先なり。○荒神不伏人云事。上傳十九の六十八葉。小出。○平ハ、此ハ許登牟都訓。○茨田下連ハ、甚疑し。も下連云事。他書小見あり。事あり。但、姓氏録諸蕃。他姓他尸小も例なき事あり。又茨田連ハ、白禱原朝の皇子神八井耳命乃御末也。彼段小見。傳二十の五十一葉。其他小此、天皇の御子ぬも乃御末。

小此、姓あり。諸書小見。之。舊事紀小。茨田連祖云也。其ハ此傳の紛ふ。録小。茨田記子依。書。天皇子息長彦人、大兄瑞城命之後也。勝景行。天皇皇子息長彦人、大兄瑞城命之後也。此紛ふ。右の茨田勝。白禱原宮段。茨田連。混。下連。此、下家連の家字乃脱。彼茨田連。一。小。此、下家連の家字乃脱。ハ、茨田連乃祖なり。又同書。江首彦八井耳命。来目津彦大雨宿禰大碓命之後也。此も紛ふ。由可。小。聞。え。大碓命。此、乃紛ふ。由可。至老。○大碓命前後の例小依。此、下小也。若、字あり。伝。小。諸本小無。脱。佳本小あり。新。○守君守ハ、書紀小依。其、文ハ、美濃國乃地、名。今時、此、名無。和名抄小、信濃國。

佐久郡小石茂理郷あり隣國あり  
書紀小見え下子引里氏人の齊明卷天智卷子守  
君大石持統卷小守君新田ふり見ゆ姓氏録左京守公  
牟義公同氏大碓命之後也又攝津國守公牟義公同祖  
大碓命之後也○大田君此地名諸國子多き中ふ是は  
和名抄小美濃國大野郡大田郷安八郡大田郷あり此  
内ふり俗一姓ハ書紀小ハ應神天皇の御子根鳥皇子  
是大田君之始祖也やあり傳の異あり形ハ姓氏録  
ハ見え續紀四十八大田首豐繼や○嶋田君和名抄  
尾張國海部郡嶋田郷あり是は美濃子近けれはな  
又駿河國富士郡

常陸國茨城郡なり小ハ此郷名あり常陸ハ久慈郡  
大田郷も有りバ彼も此も常陸の小ハ有りむ  
此姓他書小ハ見ゆ嶋田臣ありハ大碓命乃  
御末ハ右の外小ハ形ハ有下見ゆ又姓氏録小池  
田首景行天皇皇子大碓命之後也やあり和名抄小  
田郡池田○木國之酒部阿比古阿字諸本小訶作阿比  
郷あり本延佳本小依あり又比字ハ毘酒部の事次小云阿比  
古ハ尸あり上八十葉小出ハ木國小酒部氏あり  
續紀廿六小紀伊國云々又國司國造郡領及供  
奉人等賜爵并物云々女孀酒部公家乃自等各有差ハ  
天平神護元年十月の事云々彼國ハ行幸あり賞  
賜又天武紀二十二年冬十月紀酒人直賜姓曰連



乃酒部の族。宇陀乃酒部乃族。又別族。其分の知、  
 がし、ゆて神櫛王の御末に、右の外に、書紀に、神櫛皇  
 子、是讚岐國造之始祖也。や、り、姓、氏、録、に、讚岐公、大足  
 彦忍代別、天皇皇子、五十日足彦命、之後也。や、り、紛  
 の誤り、神櫛命、之後也。右の酒部乃下考、合、合、合、又  
 續後紀五、に、讚岐公、永直、同姓、永成等、合、北八烟、改、公、賜  
 朝臣、永直、是讚岐國寒川郡人、遠祖、景行天皇第十皇子、  
 神櫛命也。三代實錄九、に、右京人、讚岐朝臣、高作、同姓、時  
 雄、同姓、時人等、賜姓、和氣、朝臣、其先、出自、景行天皇皇子  
 神櫛命也。○日向國造書紀に、豊國別皇子、是日向國

造之始祖也。や、り、國造本紀に、日向國造、輕嶋、豊明朝、  
 御世、豊國別皇子、三世孫、老男、定、賜國造、舊事紀、に、豊國  
 別、命、吉備、別、祖、  
 や、り、ひ、ま、り、ま、り、  
 豊國別、命、日向、  
 諸縣、君、祖、や、り、云、  
 は、い、あ、い、

於是天皇聞省定三野國造之  
 祖神大根王之女名兄比賣弟  
 比賣二孃子其容姿麗美而遣

其御子大碓命以喚上故其所  
遣大碓命勿召上而即已自婚  
其二孃子更求他女人詐名其  
孃女而貢上於是天皇知其他  
女恒令經長眼亦勿婚而惚也

故其大碓命娶兄比賣生子押  
黑之兄日子王  
亦娶弟比賣生子押黑弟日子  
王

此者牟宜都  
君等之祖  
三野國造上  
傳世二の  
七十二葉  
小出  
神大根王諸本小神字を  
落せり今延佳が補了り依り書紀も神

骨<sup>ホネ</sup>ありぬ必<sup>ス</sup>此<sup>レ</sup>字<sup>ヲ</sup>脱<sup>ス</sup>ぬなり此<sup>レ</sup>王<sup>ハ</sup>彦坐<sup>ヒコイマス</sup>王<sup>ノ</sup>御子  
おろ上<sup>トホ</sup>傳<sup>トホ</sup>北<sup>トホ</sup>二<sup>トホ</sup>の<sup>トホ</sup>小<sup>トホ</sup>出<sup>トホ</sup>○兄<sup>エ</sup>比<sup>ヒ</sup>賣<sup>メ</sup>弟<sup>ケ</sup>比<sup>ヒ</sup>賣<sup>メ</sup>兄<sup>エ</sup>弟<sup>ケ</sup>の<sup>トホ</sup>女<sup>トホ</sup>名<sup>トホ</sup>と  
わく云<sup>フ</sup>之<sup>レ</sup>上<sup>トホ</sup>傳<sup>トホ</sup>北<sup>トホ</sup>四<sup>トホ</sup>の<sup>トホ</sup>例<sup>トホ</sup>あり書<sup>シ</sup>紀<sup>シ</sup>の<sup>トホ</sup>兄<sup>エ</sup>遠<sup>トホ</sup>子<sup>トホ</sup>弟<sup>トホ</sup>  
遠<sup>トホ</sup>子<sup>トホ</sup>あり○二<sup>トホ</sup>嬢<sup>トホ</sup>子<sup>トホ</sup>諸<sup>トホ</sup>本<sup>トホ</sup>の<sup>トホ</sup>二<sup>トホ</sup>字<sup>トホ</sup>を<sup>トホ</sup>脱<sup>ス</sup>す今<sup>ノ</sup>真<sup>ニ</sup>福<sup>ニ</sup>  
寺<sup>ニ</sup>本<sup>ニ</sup>延<sup>テ</sup>佳<sup>ク</sup>本<sup>ニ</sup>依<sup>リ</sup>たり布<sup>フ</sup>多<sup>ク</sup>表<sup>シ</sup>登<sup>リ</sup>賣<sup>リ</sup>訓<sup>シ</sup>書<sup>シ</sup>紀<sup>シ</sup>應<sup>ニ</sup>神<sup>ニ</sup>  
卷<sup>ニ</sup>安<sup>ニ</sup>康<sup>ニ</sup>卷<sup>ニ</sup>ふやめ嬢<sup>トホ</sup>子<sup>トホ</sup>あり記<sup>シ</sup>中<sup>ニ</sup>おは<sup>シ</sup>殊<sup>ニ</sup>多<sup>ク</sup>見<sup>ル</sup>  
ゆ白<sup>ク</sup>持<sup>リ</sup>原<sup>ノ</sup>宮<sup>ニ</sup>段<sup>ノ</sup>七<sup>ノ</sup>嬢<sup>トホ</sup>女<sup>トホ</sup>あり○其<sup>ノ</sup>容<sup>ヲ</sup>姿<sup>ヲ</sup>麗<sup>ク</sup>美<sup>ク</sup>云<sup>フ</sup>  
こや白<sup>ク</sup>持<sup>リ</sup>原<sup>ノ</sup>宮<sup>ニ</sup>段<sup>ノ</sup>見<sup>ル</sup>えなり傳<sup>トホ</sup>北<sup>トホ</sup>の<sup>トホ</sup>○聞<sup>ク</sup>者<sup>トホ</sup>定<sup>ム</sup>者<sup>トホ</sup>字<sup>トホ</sup>諸<sup>トホ</sup>  
誤<sup>リ</sup>なり今<sup>ノ</sup>延<sup>テ</sup>定<sup>ム</sup>ハ佐<sup>カ</sup>陀<sup>ガ</sup>米<sup>メ</sup>尔<sup>ニ</sup>訓<sup>シ</sup>師<sup>ハ</sup>カガレ  
佳<sup>ク</sup>本<sup>ニ</sup>依<sup>リ</sup>たり定<sup>ム</sup>ハ佐<sup>カ</sup>陀<sup>ガ</sup>米<sup>メ</sup>尔<sup>ニ</sup>訓<sup>シ</sup>師<sup>ハ</sup>カガレ  
ろし此<sup>レ</sup>ハ書<sup>シ</sup>紀<sup>シ</sup>に遣<sup>ラ</sup>大<sup>ニ</sup>確<sup>ニ</sup>命<sup>ヲ</sup>使<sup>テ</sup>察<sup>ス</sup>其<sup>ノ</sup>婦<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>容<sup>ヲ</sup>姿<sup>ヲ</sup>あり

依<sup>ル</sup>小<sup>ノ</sup>大<sup>カ</sup>凡<sup>ク</sup>は聞<sup>ク</sup>者<sup>トホ</sup>多<sup>ク</sup>依<sup>ル</sup>乃<sup>ハ</sup>升<sup>ル</sup>ハ慥<sup>ニ</sup>あり  
聞<sup>ク</sup>者<sup>トホ</sup>あり如<sup>ク</sup>然<sup>ル</sup>也<sup>トホ</sup>否<sup>トホ</sup>と慥<sup>ニ</sup>定<sup>ム</sup>免<sup>ル</sup>賜<sup>ハ</sup>はむ免<sup>ル</sup>  
見<sup>ル</sup>せ小<sup>ノ</sup>遣<sup>ラ</sup>なり其<sup>ノ</sup>意<sup>ヲ</sup>おろし如<sup>ク</sup>此<sup>レ</sup>約<sup>シ</sup>言<sup>ハ</sup>足<sup>ラ</sup>ぬ如<sup>ク</sup>  
文<sup>ヲ</sup>なりげり依<sup>ル</sup>遣<sup>ラ</sup>上<sup>リ</sup>而<sup>シ</sup>字<sup>ヲ</sup>ありハ下<sup>リ</sup>文<sup>ヲ</sup>小<sup>ノ</sup>故<sup>ニ</sup>取<sup>リ</sup>其<sup>ノ</sup>人<sup>トホ</sup>  
辨<sup>シ</sup>而<sup>シ</sup>遣<sup>ラ</sup>なり格<sup>ヲ</sup>なり其<sup>ノ</sup>御<sup>ノ</sup>子<sup>トホ</sup>大<sup>ニ</sup>確<sup>ニ</sup>命<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>喚<sup>ル</sup>  
上<sup>リ</sup>直<sup>ニ</sup>あり古<sup>ク</sup>文<sup>ヲ</sup>なりも言<sup>ハ</sup>足<sup>ラ</sup>ぬ如<sup>ク</sup>あめ是<sup>レ</sup>又<sup>ク</sup>  
約<sup>シ</sup>免<sup>ル</sup>云<sup>フ</sup>依<sup>ル</sup>古<sup>ク</sup>文<sup>ヲ</sup>なり喚<sup>ル</sup>上<sup>リ</sup>賜<sup>ハ</sup>はむ如<sup>ク</sup>云<sup>フ</sup>  
意<sup>ヲ</sup>おろし續<sup>シ</sup>紀<sup>シ</sup>此<sup>レ</sup>の<sup>トホ</sup>詔<sup>ヲ</sup>云<sup>フ</sup>々<sup>トホ</sup>向<sup>テ</sup>求<sup>メ</sup>仁<sup>ニ</sup>朕<sup>ガ</sup>所<sup>ニ</sup>念<sup>ス</sup>天<sup>ノ</sup>在<sup>ル</sup>何<sup>ノ</sup>如<sup>ク</sup>久<sup>ク</sup>  
大神<sup>トホ</sup>乃<sup>ハ</sup>御<sup>ノ</sup>命<sup>トホ</sup>尔<sup>レ</sup>波<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>在<sup>ル</sup>止<sup>ム</sup>聞<sup>ク</sup>行<sup>キ</sup>定<sup>ム</sup>都<sup>ノ</sup>あり○喚<sup>ル</sup>上<sup>リ</sup>上<sup>リ</sup>傳<sup>トホ</sup>  
五<sup>ノ</sup>の<sup>トホ</sup>四<sup>ノ</sup>の<sup>トホ</sup>出<sup>ツ</sup>此<sup>レ</sup>ハ喚<sup>ル</sup>上<sup>リ</sup>所<sup>ニ</sup>思<sup>フ</sup>者<sup>トホ</sup>て然<sup>ル</sup>仰<sup>ル</sup>属<sup>ス</sup>依<sup>ル</sup>云<sup>フ</sup>な  
十六<sup>ノ</sup>葉<sup>トホ</sup>既<sup>ニ</sup>喚<sup>ル</sup>上<sup>リ</sup>なり輕<sup>ク</sup>鳴<sup>ク</sup>宮<sup>ニ</sup>段<sup>ノ</sup>小<sup>ノ</sup>也<sup>トホ</sup>天<sup>ノ</sup>皇<sup>ノ</sup>聞<sup>ク</sup>者<sup>トホ</sup>日<sup>ノ</sup>向<sup>テ</sup>國<sup>ノ</sup>諸<sup>ノ</sup>縣<sup>トホ</sup>  
君<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>女<sup>トホ</sup>名<sup>トホ</sup>髮<sup>トホ</sup>長<sup>トホ</sup>比<sup>トホ</sup>賣<sup>トホ</sup>其<sup>ノ</sup>顔<sup>ヲ</sup>容<sup>ヲ</sup>麗<sup>ク</sup>美<sup>ク</sup>將<sup>シ</sup>使<sup>テ</sup>而<sup>シ</sup>喚<sup>ル</sup>上<sup>リ</sup>之<sup>レ</sup>時<sup>トホ</sup>あり









與行其何處有善射者焉。或者啓之曰美濃國有善射者。  
曰弟彥公。於是日本武尊遣葛城人宮戶彥喚弟彥公。故  
弟彥公便率石占、橫立及尾張、田子之稻置、乳近之稻置  
而來。則從日本武尊而行之。其所以此王亦於此。美  
國人亦於此。但此之倭建命之御甥也。坐由の  
記し作まのよきげの崩え。又公之御甥也。傳乃  
異あり。又倭建命の十六歳乃時大碓命。○牟直都  
乃御子。小るハ。牟直都乃時大碓命。○牟直都  
君。和名抄小美濃國武藝。牟直都乃時大碓命。書紀小四十年  
秋七月。天皇詔群卿曰。今東國不安云々。遣誰人以平其  
乱云々。日本武尊奏言。臣則先勞西征。是役必大碓皇子  
之事矣。時大碓皇子愕然之。逃隱草中。則遣使者召來。爰

天皇責曰。汝不欲矣。豈強遣耶。何未對賊以豫懼甚焉。因  
此遂封美濃。仍如封地。是身毛津君守君。二族之始祖也。  
即あり。氏人ハ雄畧。卷小身毛津君大夫。天武。卷小身毛  
君廣。續紀。子牟直都君。此品也。此人あり。郡名。又姓  
氏録。小も依。小都也。省。ま。牟直也。云。  
續紀。卅六。子牟義都公。真依。又釋紀。子引。亦上宮記  
小牟義都國造。名伊自牟良君。小見ゆ。姓氏録。小。左京  
牟義公。景行天皇皇子大碓命之後也。其。主水司武  
御井。祭。條。小。右。隨。御。生氣。擇。宮中。若。京内。一井。堪。用。若。定。  
前。冬。上。王。牟直。義都。首。深。治。即。祭。之。至。於。春日。昧。且。牟義  
都。首。汲。水。付。司。擬。供。奉。也。あり。  
此。氏。ハ。他。氏。ハ。知。然。あり。  
如。此。あり。こ。也。い。あり。  
由。録。あり。其。も。未。考。了。也。

此之御世定田部又定東之淡  
 水門又定膳之大伴部又定倭  
 屯家又作坂手池即竹植其堤  
 也。

田部ハ多辨明訓法ノ如ク心部ハを添テ訓ハ非ナリ  
 和名抄長門國筑前國志賀郡乃郷名の田部也  
 之ハ見

多倍ヤありゆて田部云物ハ役テ屯家乃御田也  
 屯家又其御田の事ハ次々佃らるる料亦定置  
 民の部あり。尋常の如ク其田を己ガ田ハ御田を役  
 佃ハ納まり是漢國の古ハいはゆる井田乃法也。公  
 田を耕多シ似ありゆれば其御田ハ出来ぬ。稲ハ  
 乃代りハ其内を分テ賜りたり。或ハ免り。事ナリ  
 事ハ細カ。書紀ハ五十七年冬十月令諸國  
 興田部屯倉ヤあり。此ハ田部屯倉ヤなり。非也。安  
 閑卷ハ元年秋七月詔曰皇后雖體同天子而内外之名  
 殊隔亦可以宛屯倉之地式樹椒庭後代遺迹迺差勅使  
 簡擇良田勅使奉勅宣於大河内直味張曰今汝宜奉進

膏腴唯雉田味張忽然恠惜欺誑勅使曰此田者天旱難  
溉水潦易浸費功極多收穫甚少勅使依言服命無隱此  
良田也擇ひて後宮に充ゆ屯倉之地に賜はむ冬十  
月天皇勅大伴大連金村曰朕納四妻至今無嗣萬歲之  
後朕名絶矣大伴伯父今作何計每念於茲憂慮何已大  
伴大連金村奏曰亦臣所憂也夫我國家之王天下者不  
論有嗣無嗣要須因物為名請為皇后次妃建立屯倉之  
地使留後代令顯前迹詔曰可矣宜早安置大伴大連金  
村奏稱宜以小墾田屯倉與每國田部給貺紗手媛以櫻  
井屯倉與每國田部給賜香々有媛以難波屯倉與每郡

鑣丁給貺宅媛以示於後式觀乎昔詔曰依奏施行每國  
屯倉給ふやハ國々小所々田部の内を取て今賜ふ屯倉  
を屬て賜ふと云其屯倉乃御田を佃らむ心々免  
るに十二月行幸於三嶋大伴大連金村從焉天皇使大  
伴大連向良田於縣主飯粒縣主飯粒慶悅無限謹敬盡  
誠仍奉獻上御野下御野上桑原下桑原并竹村之地凡  
合肆拾町大伴大連奉勅宣曰率土之下莫匪王封普天  
之上莫匪王域云々今汝味張率土幽微百姓忽尔奉惜  
王地輕背使乎宣旨味張自今以後勿預郡司於是縣主  
飯粒喜懼交懷遇以其子鳥樹獻大連為僮豎焉於是大  
河内直味張恐畏求悔伏地汗流啓大連曰愚蒙百姓罪



國匝瑳郡下野國足利郡長門國豊浦郡筑前國早良郡  
ふぢの田部郷あり式子述江國高嶋郡子田部神社也  
古の此部乃居住跡あり續紀北子田部宿祢  
也云姓の人も見え記中も櫻井田部連也云もあり○  
定也此時始也云の非也舊ありも有る物あり  
也更増ふ也一て多く定免れり書紀五十七年  
也見趣なり○定東之淡水門東の阿豆麻字訓也  
然も趣なり阿豆麻字の倭建命の後始あり淡ハ安房國な  
る也此のふの後の傳言あり淡ハ安房國な  
東之也云の四國乃阿古語拾遺神武天皇の御世乃  
波也分むふあり率齋部諸氏作云々木綿麻寺云  
也又令天富命太玉命率齋部諸氏作云々木綿麻寺云  
云仍令天富命率日鷲命之孫求肥饒地遣阿波國殖穀

麻種云々天富命更求沃壤分阿波齋部率往東土播殖  
麻穀好麻所生故謂之總國古語麻謂之總也今為阿波  
忌部所居便名安房郡今安房國是也天富命即於其地立太玉  
命社今謂之安房社式也安房國安房郡安房坐神社名  
是續紀八の養老二年五月甲午朔乙未割上総國之  
平群安房朝夷長狹四郡置安房國十四也天平十三年  
十二月丙戌安房國并上総國北也天平宝字元年五月  
乙卯安房國依舊分立也何り書紀也五十三年秋八月  
天皇詔群卿曰朕顧愛子何日止乎冀欲巡狩小碓王所  
平之國是月乘輿幸伊勢轉入東海冬十月至上総國從

海路渡淡水門云々。是れ此の時淡水のいまど一國の名  
の非波上総國乃内も其水門の安房の相摸  
國御浦郡の御崎今も御乃間を大海より入海  
海門あり。此海の東の上総西の武藏北の下総  
今天皇の此水門を渡坐し相摸子渡里賜あり。此  
坐道より上総より相摸子渡里賜あり。此  
定也云ハ天皇の渡坐し相摸子渡里賜あり。此  
乃を御也。又始をて此海路の開け云ふも  
法ハ。○定膳之大伴部膳ハ加斯波傳也訓法膳夫を  
云。此物の事上傳十四の小出書紀ハ五十二年云々  
乃文上渡淡水門是時聞覺賀鳥之声欲見其鳥形尋而  
引至

出海中仍得白蛤於是膳臣遠祖名磐鹿六鴈以蒲為手  
繼白蛤為膾而進之故美六鴈臣之功而賜膳大伴部  
阿部大伴部云ハ膳夫也乃多其伴の廣き由の  
稱あり賜也其多乃膳夫部を悉く率掌らるる  
其部の帥也為給也云ハ膳大伴部ハ姓を賜ふ  
は混ぶ然ふ姓氏録ハ別膳大伴部云ハ膳臣氏  
有る彼故事を奉ふハ後此事あるを先祖六雁乃膳大  
伴部を帥由縁を以て其姓を負ひぬるなり。此  
此氏の下の彼故事を奉むるも膳大伴部此事境原宮  
段膳臣の下ハ傳廿二の也考合を法儀ハ膳伴造鑽火  
即炊御飯也右の定也ハ彼多乃膳夫等を此  
膳大伴部氏なり

時始免之。膳之大伴部。號也。磐鹿六雁命。屬賜  
牙海也。云ある。一。○條。屯家。屯家の美夜氣也。訓書紀  
垂仁卷の二十七年。興屯倉于来目邑。屯倉。此云弥夜氣  
也。あり。これ屯倉乃始免之。見たり。但し屯倉。此  
より始まる。必し非此。此より先も。奮よりあ  
る。一。名義の御家あり。家也。夜氣也。夜加也。云例  
朝廷也。大家なり。又書紀の舎屋宅屋あり。ヤカス也。  
訓書も。家栖あり。源氏物語も。家を夜。家持也。云人名  
也。あり。夜氣也。夜加也。通はし。云。食也。これの美  
夜氣の意。富夜氣也。云。同。下意は。了。も。名。了。也。也。  
官所の出なり。其中。小分。了。此名を負て。諸國處々也。

何れ。屯家。云物也。元穗官段也。屯宅也。書書紀也。  
又地名。姓なり。官家也。書書紀。何れ。屯家。皆同ト  
云。出なり。但し官家也。書書紀。百濟國也。官家。國也。  
氣也。官家也。書書紀。處のい。稀なり。韓国内あり。美夜  
は。欽明卷の弥移居也。書書紀。其の韓人。乃書書字なり。  
た。不。韓國を美夜氣也。云。事の。詞志也。官段也。委。云  
古の國々處々也。朝廷の御田あり。德卷天武卷。孝  
也。屯田也。あり。是なり。其の。朝廷乃御。わの上也。  
出。田部也。云者。を役。ひ。佃。了。其。御田也。成  
也。稻穀を藏。御倉。及其官舎也。合。美夜氣  
也。云。屯倉也。書書紀。其御倉也。就。書書紀。屯  
家官家あり。其名乃本の義。又官所也。就。書  
名。字なり。美夜氣也。御倉官所也。就。書  
名。字も。通。用。ひ。也。又屯。字。を。書。也。





宿祢宜遣尾張連運尾張國屯倉之穀物部大連鹿鹿火  
宜遣新家連運新家屯倉之穀阿倍臣宜遣伊賀臣運伊  
賀國屯倉之穀修造官家那津之口又其筑紫肥豐三國  
屯倉散在縣隔云々亦宜課諸郡分移聚建那津之口云  
云欽明卷十七年秋七月遣蘇我大臣稻目宿祢等於備  
前兒嶋郡置屯倉以葛城山田直瑞子為田令田令此云  
陀豆歌毘推古卷十四年每國置屯倉ふやありたや上  
り田部下小引体文やもをも考合まほしくあて孝  
德卷小二年春正月宜改新之詔曰其一曰罷昔在天皇  
寺所立子代之民處處屯倉及云々同年詔云々宜罷官

司處々屯田及吉備嶋皇祖母處々貸指以其屯田班賜  
群臣及伴造等ま皇太子奏請曰云々現為明神御八  
嶋國天皇向於臣曰云々及其屯倉猶如古代而置以不  
臣即恭兼所詔奉答而曰天無雙日國無二王是故兼并  
天下可使万民唯天皇耳別以入部及所封民簡充仕丁  
從前處分自餘以外恐私駈役故獻入部五百二十四口  
屯倉一百八十一所あり右の文乃趣を考ゆめ當時  
屯倉も多ありあり其の皆公の獻らるる存と  
正しく天皇の御料ありありとを奮のまゝ存と  
ふ如く聞ゆれや大方此孝德天皇乃御世の古の  
御制度を多し廢られ何事も變りぬれ屯倉や  
り物の大方形此時よは後ありぬ徒よ此彼地名  
を絶めむわし

ゆり子残り。倭屯家。一國の倭。大和國城下郡倭。郷ありと云。仁徳紀。此屯家乃こゆを倭直氏。和名抄。小同郡三宅。美也。郷あり。是其跡あり。書紀仁徳卷。小額田大仲彦皇子。將掌倭屯田及屯倉。而謂其屯田司。出雲臣之祖。淤宇宿祢。曰。是屯田者。自本山守地。是以今。吾將治矣。爾之不可掌云々。大鷦鷯尊向倭直祖麻呂曰。倭屯田者。元謂山守地。是如何對言。臣之不知。唯臣弟吾子籠知也云々。吾子籠對言。傳聞之於纏向王城官御宇。天皇之世。科太子大足彦尊。定倭屯田也。是時勅旨。凡倭屯田者。每御宇。帝皇之屯田也。其雖帝皇之子。非御宇者。

不得掌矣。是謂山守地。非之也云々。大中彦皇子。更無如何焉。これ垂仁天皇乃御世。太子大足彦尊。科世。あつて。皇子を大山守皇子乃誤。あつて。思ふ。中々。○坂手池。手を多。訓。又。度。訓。係。非。あり。録。紀。北。六。小。河。内。國。尺。度。池。也。云。見。え。鳥。網。張。坂。手。手。今。過。り。地。あり。大和國あり。此。哥。の。坂。手。を。今。は。い。あ。式。十。市。郡。小。坂。門。神。社。あり。其。起。を。思。ひ。了。り。又。若。古。本。小。坂。戸。あり。手。誤。を。彼。を。訓。本。の。ま。く。了。遺。を。あ。り。然。ら。彼。坂。門。神。社。同。地。な。り。修。を。れ。此。小。引。修。う。然。也。然。も。也。今。も。城。下。郡。小。坂。手。村。也。云。あ。れ。其。所。也。

彼、哥ミチナミの路次ミチナミ子ミチナミあなミチナミ子ミチナミ里ミチナミ。式也尾張國中嶋郡坂手神社ありこりゆい国名乃例を引  
 師タケの○竹植其堤堤ツツハ包む意の名なり。字鏡小坡ツツ以  
 土壅水也豆々ツツ牟ム也ム所ム和名抄小坡堤和名豆々三堤  
 又作堤ト見ゆ書紀云五十七年秋九月造坂手池即竹  
 蔣其堤上ニあニ二典共フタフタ也堤ハ竹をツツ填ツツらツツれツツ事ツツをツツ記ツツ之  
也ゆいハ他ハ其古ハ也



